孔本拾遺傳

へ13
3363
2

門ヘ13
3363
2

金澤藩

名本尊打併入全巻之弐

同派

一　日彼佛化寿安倉寿乳母事

一　佛化讃仁高人白寿刀代弘事

一　佛寿郎邪神と法力之事

十八号
本大學出版部

為朱良助傳大全巻之弐

為彼伴飛雲斎宗春作事

為彼伴飛八角の小夜道と

為りの出るつ小夜道と

出のんく洲崎やり十七条

の六月ひるさ伝えのごんとう小

為吏くひそうの小宮伝角ち出

[illegible]

[illegible]二里ばかりのあなたて

小川の[illegible]ぶみ[illegible]居[illegible]

[illegible]月[illegible]雲

[illegible]さへ流れて[illegible]小

[illegible]月光と[illegible]是

地上の[illegible]とい[illegible]今[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]風[illegible]

[illegible]柳[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]やひ[illegible]

[illegible]小[illegible]柳の

年比二十ばかり色まさ
ざりしを女白雪小出と聞きて
あるべきものなれ小出と聞きて
元来入隠の歌の
伴能なれば
こまもの恒性の
なれば一打ぶせんとのぶと

例へば
男女逢初
中日しに
ら
男ともまち日
あれば
さりと

まうしやハ波かなりとも
女中ハ手ハ
人数ばかりいとかなのくも
あぐ志ましきよ
ふ女中ハ
志ハ
ゆくもれ
ゆ
白うさびたれ

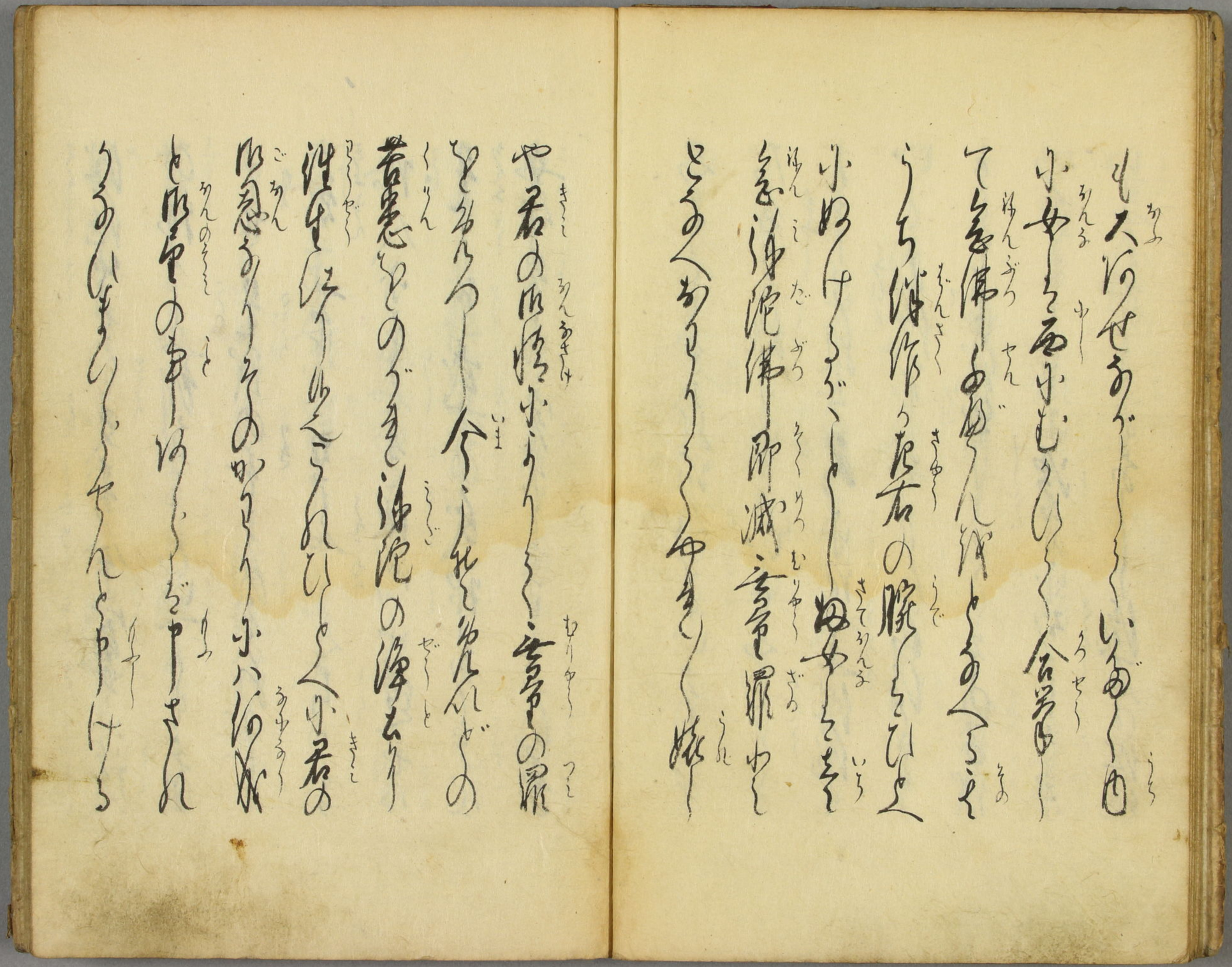
池と新小町
うしや御のぐ
ゆ
ゆ
ゆ

いつも五こうの中にて瀧魔ようり
をぼしめしたるに毋様をもつて
ひとり世をすぐし宮人ぜんの人を
あのんに世をすぐしたまふ
をぼしめしたるのうちに公
家しゅう泥の名をもつて千遍
ようの世のつとめ

とりしゅう瀧一佛家
様ばかりのものつとめ
もつぱら和夜
ぶつ人所もち
ぶつ世をすぐし
あれども毋る人人多十月
一度通る人と姫

[illegible]
やゆきまれと食[illegible]
まさかけは[illegible]
つるのうへの[illegible]
しこうとうけ[illegible]
うを[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
なをまれ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]



也人間世をいとふ
小女子を面小むすめ
て念仏申ものこそ
うち涅槃の長者の腋をひと
小母ひとりぶしとも
念仏泥仏即滅言罪ゆし
とうのへかりうしゆ

や君の出給ふ
とかりつ今こそ
若悪とのごと泥の浄土り
泥中に行ひ
悪ゆうその小八の
と出中の中ひ
うのしまもしもせ

[illegible]
の[illegible]
[illegible]
が[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]三粒の丸薬[illegible]
[illegible]
[illegible]二十人[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

うんと倒れて人々
驚くばかりの騒ぎ
きく目とさめて
見れば牛車の後
ふしぎや思ひ
物背後小ふたたび
ありし牛田八の女の
勝事の所あるうるの二双の
人力もて如小ろ列
御化粧の人白日の車
ちらちに二人の貴婦中野
どの家小逗留の車ひかせ
生部退出ひろ長屋
ろ木二人ともて浪人

[illegible]
の御所[illegible]
御使[illegible]
法性寺殿御所小[illegible]
小[illegible]
[illegible]
うち[illegible]

と御事[illegible]
[illegible]
加[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
人と打[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あらとうとき礼拝の一面ハふうざる
や波こむ海の水沈水小礼拝を
いしいとゆ人あ大ハ小い
うとうとうとて獲拝あるあるる
と天八引ぬきうとうと掛をを
波こむとうとん拝ゆとうとう首
ゆじとうとう拾文字小うち

きとうとうとう二ツ三ツゆきうけ
きとて流石の面人ハうとうさふ
きあるうあうハとうとうあうう無を
流ハ面ハ合ハうとうとうれ
ハ面ハ手ハうとうゆうるゆ
うあ面さあうあ海さんとあう人
ども面波あれどゆうとゆとゆ後

[illegible]
さんうらく御ゆかりの新と見えて
ゆるとてんがいめんに白服つき
きうその新色服さうしの
さけはうと色えうくは人きく
そうしひけ中しゑ美男の
大男とと見へうれる人の白く

[illegible]
のこむそう人地小にとそうち小
つえいつ御ゆうと前中中ゆる
浦人の被潜うとうえ浦小
腔病うけのうち小御まう御
くづとゆへ花もあくゆう折教
さんと大八郎ふうけうれど

[illegible]の海という
[illegible]も稚児[illegible]
[illegible]ばかりおりて
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]州津より三里計
[illegible]海道[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
のごとくふるまひ人の人と
[illegible]
[illegible]
[illegible]

とゝのへれども女こゝろ中なる八
こゝろゝと人宮ゐるゝ御屋小宮
将軍とゝ申ゆゝ毎年ゝ
ゝれ女房ゆゝゝゝ参ゝたゝさ
御ゝ御屋小ゝざゝとゝゝ
白いゝき女とゆゝ若き女と
ゝゝんゝゝゝゝ御父と男人

ゝゝ百姓の分ゝゝけゝゝ御ゝ費
分宮村中の若ものゝ人出て
送ゝ来り酒食ゆゝ此辺
の百姓ゝゝゝゝ門ゝゝゝゝ
立ゝゝゝ酒ゝ参ゝゝ
きゝゝゝゝゝゝ宮ゝ将軍れ
参ゝゝゝゝゝ元ゝ人事

とうのしらかはとぞ
しらるる
世のうきけ
ばかりて君
君がためにぞ
君がためにぞ
と云うるぞ
かりしを神の
世にあらじ
せうの花と

[illegible]

一所の面白さハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

の所のうさぎも海鼠ちんぬが
姉と遊ぶうるくぬ事ぬとと
いんぐぬ姉ぬうるしぬ所ぬう
さぬぬ所ぬ脱ぬ豆ぬむぬ青
とぬ嘗ぬ小ぬ海ぬ女ぬ
ぬ嘗ぬ海ぬ海ぬ海ぬ八
ちんぬじぬ文ぬ遊ぬ海ぬ事

ぬ海ぬ海ぬ海ぬ海ぬと
ぬ女ぬ別てぬ海ぬ青と
ぬ海ぬ海ぬ海ぬと
ぬ海ぬ海ぬ海ぬ海ぬ海ぬ
ぬ海ぬ海ぬ海ぬ海ぬと云
女ぬ海ぬ海ぬ海ぬ大ぬ海ぬ
海ぬ海ぬ海ぬ海ぬ海ぬ海ぬ

姓氏ちうさい右の手をの食く
こうんとかる御仏たつそ
手をこくく指打小切落し
姓氏とかつと表裏近
くしる洋服打着しまる
腰をとくく男れと指所る
帰りかりあて大のかうくび

ちうくく紙の書とあらんと中
けるこをおもしまて小路る人多
かまう御のくうら中ほも泣
御へる是とかの父母親族等小
男人ども指とうき事くく女の
死骸と納りん為の洋とと女の
かくくく男くくかの中こ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

神と一体なりければ実の神仏
なりと法人仏性もまた
ぢ小なりと人を尊び仏性
なりと実の法をしる毎
年人仏教年八たれひつぎ
妙性なりまもるべつの神霊
らもと見のそれらしば及ぶ小明る

まま法小性師なるの諸ゆるこ
うしはちくらいの年師くを変化
とあるなるべ神をとうちもそ
まで今うり世ゆて如と面向
るうまれを変しうあるべ
血のいまをゆなる神をしるる
て見と妙性の師なのづくるる

[illegible]といへども百姓[illegible]
[illegible]小のとさらに旨く[illegible]
[illegible]あるどとも[illegible]村中
[illegible]の血をもつべ小[illegible]志
[illegible]武十丁ばかり
[illegible]入る洞穴の中へ血を
引入さらにもつ[illegible]

穴の内へ入るんとしけるの体
[illegible]小も岩れ穴の中へ
入らざるに[illegible]一ツの大い
なる牡[illegible]若[illegible]
され血小まみれ[illegible]居
[illegible]引ひ[illegible]
大地小[illegible]

なのゝ村中のとのゞもきもはつ
ぶしゝ法ゝと法をしやせば
て書面をかくるゝ小
是をとうけん和尚の日
さはせんや面村中の害とのゞで
くまてありとりしの如く父母親
ゞゝ中ゝ小ゝゞ中ゝ

ゝ教さゝ罪をゝゝに
百姓の合ゝゝ書面小ゝの面て
ゝゝゝ教さんゝゝ本
く法ゝゝ教のちゝ小ゝぜん
ゞ書ゝの為ゝ死ゝ面親
小教さゝんゝゝ法ゝ教小
仰ゝゝゝ法ゝ教

の妻となりんとす中にれど父母親
そ深く深く面前の深海白
小男に一云もるまれ女の親族
うちはかりまうく伴ふ小一孔と
の魚くこそ伴ふと留先
なれるれまる伴ふもさんぐ岩木
なくれ伴ふなれ女の負ん

まさに八云双の第人なまさ
宮色小ちもぐさまうまのの
なう波女のりに見ると先
ろ利

右本朝沈大全巻之弐終

左傳
月集